

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

VII 公害反対闘争

10 志布志湾開発反対闘争

志布志湾を埋め立てる国家石油備蓄基地建設計画

一九七一年鹿児島県は、日南海岸国定公園の一部の指定を解除し志布志湾を沖合二キロにわたって埋め立てて大石油コンビナートなどを立地させるという「新大隅開発計画」を発表した。それ以来、地元住民をはじめ、鹿児島・宮崎両県評、関係地区労などが、ねばり強い反対運動を展開してきた。ところが、石油公団は、この一〇年にわたる反対運動を無視して、一九八一年九月七日、志布志湾の一部を埋め立てて巨大な国家石油備蓄基地を建設するとの発表をした。地元では、この日、ただちに、志布志湾公害反対連絡協議会、宮崎県串間市志布志湾公害反対期成同盟、鹿児島・宮崎新大隅開発反対共闘会議の三団体が主催して、一〇〇〇人をこえる抗議集会を開いた。この集会の総意をもって、鹿児島・宮崎両県の地元代表団一五人が上京し、これに総評も参加したうえ、九月一七日、石油公団、環境庁長官との交渉をおこなった。石油公団にたいしては、前記発表に嚴重抗議するとともに、現地住民の生命をかけても志布志湾を守り抜くとの抗議文を手渡した。また、鯨岡環境庁長官との交渉においては、志布志湾を国家石油備蓄基地から守ってほしいとの地元住民の強い要請にたいして、長官は、発表されているものをみる限り環境庁としては、基地建設計画に同意できないと回答した。

石油備蓄基地反対の一万人数集

一九八一年一〇月二五日、「志布志湾埋め立て、国家石油備蓄基地建設断固粉碎、一万人総決起集会」が、鹿児島県肝属郡東串良町の柏原海岸で開かれた。石油備蓄基地建設のために志布志湾が埋め立てられ、白砂青松の美しい自然が破壊されることに危機感をもった地元住民をはじめ、鹿児島・宮崎両県評、その他の九州各県評の労働者など一万人以上がこれに参加した。

ところが、一九八二年二月二五日、鹿児島県知事の要請を受けた原環境庁長官は、志布志湾埋め立てと国家石油備蓄基地建設にたいして、事実上これを認める態度をとるにいたった。このあと、鹿児島県知事は、三月県議会に石油備蓄基地建設のための諸方針を提出し、県議会に機動隊を導入して、予算などの強行採決をおこなったうえ、志布志湾岸部において、県のアセス調査を強行した。このような県の強行姿勢にたいして、住民側は対決姿勢を強めているが、中央段階でも、一九八二年五月、総評、日本社会党などが中心となって、「国定公園志布志湾を守る中央対策本部」が設置された。

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
